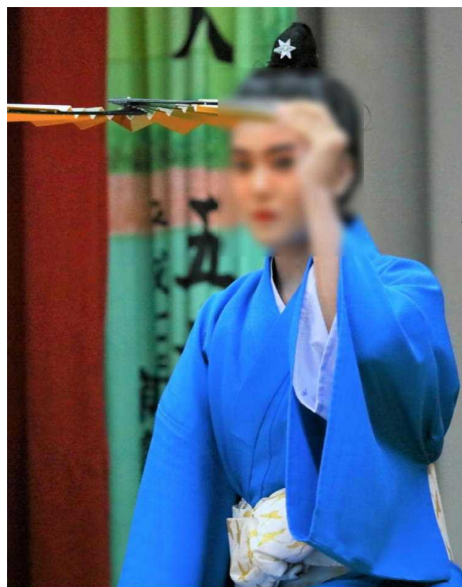


# 成長・貢献・感謝

# 川上区中学生が大活躍

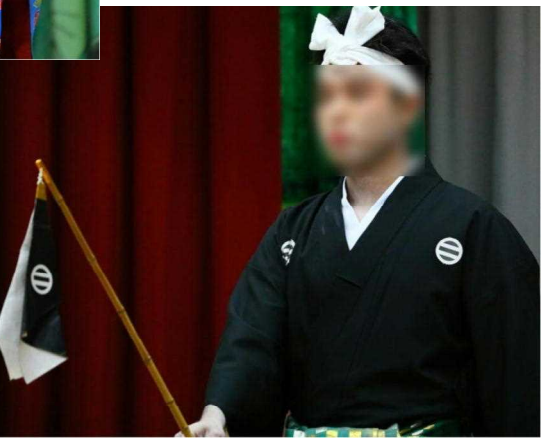
羽地中学校  
 学校だより 93 号  
 R1. 9. 13



9月8日(日)、川上区の豊年祭は、まだ続きます。その理由は、中学生の出番が今年が多かったからです。  
 プログラム中盤には、「こてい節」にM・Sさん、U・Rさんが登場して若衆踊りを披露しました。  
 「こてい節」は歌詞の3番に、大西区(読谷村)の強い牛(こてい)は、やなづち葉が好きだけれども、私達、若者は花を好む。とあり、そこから「こてい節」と言われるようになったとのこと。  
 続いては親子二人の競演でM・Kさんが「加奈ヨー」を軽快に踊って魅せました。  
 「加奈ヨー」は、明治期の創作舞踊で、村の若い男女の恋を強調した歌詞に玉城盛重が振り付けたテンポの速い曲です。親子での軽快



な踊りを微笑ましく見させていただきました。  
 玉城盛重さんは、明治元年首里の生まれの人で、「加奈ヨー」の他に「花風」「むんじゆる」「松竹梅」など、雑踊りの創作に大きな功績を残した人です。  
 元職員だったY・T先生も二才踊り「大浦節」「揚作田」を勇壮に舞っていました。少しずつ上達しています。  
 プログラム12番にF・Mさん、T・Sさんの「四つ竹」が登場しました。「四つ竹」は、古典舞踊を代表する女踊りのひとつで、鮮やかな紅型衣装をまとい、恋愛を主題として優雅に踊る、玉城朝薫の創作した優美な演目です。Fさんは駅伝練習もあり、毎日、忙しかったと



しかったと思います。二人とも優雅な踊りでした。  
 卒業生のI・Nさん、I・Rさんも「浜千鳥」で出演していました。  
 琉球舞踊は、荘厳で優雅で格調高い踊りが豊富にある沖縄が世界に誇る芸術です。その一翼を若い世代が担って継承している姿に感動し、感謝いたします。